JAPAN FOUNDATION FOR
UNITED NATIONS UNIVERSITY

# jfUNU Newsletter

NO.33　2018 年 9月

CONTENTS

●jfScholarship 奨学生インタビュー
●国連広報センター広報官インタビュー
●jfUNU にインターン生が来ました

公益財団法人 国連大学協力会
〒 150-8925 東京都渋谷区神宮前 5-53-70
TEL 03-5467-1368　FAX 03-5467-1349
URL http://www.jfunu.jp/　E-mail jf@unu.edu

東京青山にある国連大学本部ビルの中には、世界各国から学生や研究者が集い研究を行っている国連大学サステイナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) の他、国連機関の駐日事務所も多くあります。今回は、国連大学協力会インターン生で、早稲田大学アジア太平洋研究科修士 1 年の朱 起蕙（シュ　キケイ）さんが、jfScholarship 奨学生である UNU-IAS 修士課程 2 年の Miguel さんと国連広報センターの広報官妹尾靖子さんにそれぞれインタビューを行いました。

## ¡Hola! jfScholarship 奨学生に聞きました

## ～ UNU-IAS で学際的な研究を～

* スペイン語で「こんにちは」の意味

### Miguel Velasco Gutierrez さん

国連大学サステイナビリティ高等研究所（UNU-IAS）大学院
修士課程 2 年生　メキシコ出身

ー研究テーマと将来の夢ー

ネパールにおける水不足問題に向けて持続可能な水管理を研究。
将来は、土木技師としての実務経験を活かし、知識と技術的なスキルを兼ね備えた政策コンサルタントとして活躍するのが夢。

### UNU-IAS を大学院進学先に選んだきっかけ

大学院進学を考えた時、政策と技術面の両方を研究できる大学院を探していました。UNU-IAS では政策に関するアプローチができるプログラムがあり、かつ学際的な研究が可能です。様々な分野について幅広く勉強できる UNU-IAS が私に向いていると思いました。

### UNU-IAS の魅力：多様性溢れる環境

UNU-IAS の一つ目の魅力は学生の多様性です。学生の出身地はアフリカをはじめ、ヨーロッパ、南アジア、東南アジア、ラテンアメリカといった様々な地域から学生が UNU-IAS に集いそれぞれ研究に取り組んでおり、研究しながら異文化交流もできます。また、大学を卒業してすぐ大学院に進学した人から、社会人経験を経て進学した人まで、多様な経歴を持つ学生と一緒に研究できるのは非常に貴重な経験となります。例えば、あるインドネシア出身の学生は大学時代に国際関係を専攻していたり、洪水研究が専門の海洋生物学者の方がいたりとバラエティに富んでいます。そのような多様性があるからこそ、議論する時に、自分では思いつかないアイディアも得ることができるので、非常に研究に役立ちます。

### UNU-IAS の魅力：少人数のクラスで効率的な研究

UNU-IAS の二つ目の魅力は少人数制のプログラムです。そのおかげで、教授との距離が近く感じるのはもちろん、質問しやすく、きめ細かなフィードバックももらえるので研究の効率が高まります。

### jfScholarship 奨学金の重要性

奨学金がなければ日本に留学できなかったと思います。大学院進学のため、退職をせざるを得なかったし、両親に経済的負担をかけるわけにもいきませんでした。日本での生活費は完全に奨学金が頼りです。普段いつも節約を心がけています。UNU-IAS のある東京青山のような物価の高いところでは外食せず、ほとんど毎日自炊しています。外食は時折渋谷の安いラーメン屋さんで食べるくらいです。アパートは家賃が安く、通学時間 1 時間ほどかかるところに住んでいます。

### 日本企業文化に感動：キッコーマンの工場見学

JfUNU の企画するイベントの中でもっとも印象に残ったのは醤油メーカーであるキッコーマン株式会社の見学でした。従業員の方々が一列に並んで非常に暖かく迎えてくれ、あらためて日本の企業文化のすばらしさに感銘を受けました。工場で醤油味ソフトクリームを試食したときは非常に盛り上がりました。こんなにおもしろい見学ははじめてでした。ちなみにソフトクリームは塩キャラメルに近い味がしておいしかったです。jfUNU が実施する企業見学やほかのイベントに是非参加したいです。

### 寄付者へ伝えたい感謝の気持ち

いつも支えていただき本当にありがとうございます。私だけでなく、奨学生誰もが感謝の気持ちを抱いていると思います。いただいている奨学金が間違いなく夢を支えています。おかげさまで日本に留学でき、人生に大きな変化が起きました。また、奨学金だけでなく、jfUNU の企画する企業見学や歌舞伎鑑賞という貴重な機会にも恵まれたので、日本文化と企業についてもより関心を持つようになりました。改めて心より感謝します。奨学金制度がいつまでも続くことを願っています。

### 日本での暮らしでのエピソード

日本の素晴らしい点を一つ挙げるとすれば、落とし物は必ず戻ってくることです。この前財布を落としたのですが、知らない方が交番まで届けてくださいました。これは、メキシコでも、中国でも、イギリスでもあり得ないことでしょう。日本のそういうところがとても好きです。ただ、電車では誰も話さず静かなのには驚きました。メキシコでは、電車の中でも話したり、笑ったり、にぎやかです。今は日本の習慣にも慣れ、電車で喋るときは声を小さくするようにしています。

UNU-IAS 大学院生を支援しよう！ - jfScholarship 募金 -

jfScholarship 奨学金とは、国連大学大学院で学ぶ開発途上国出身の学生を支援する国連大学協力会の奨学金です。過去には、ザンビアやジンバブエなどのアフリカ諸国をはじめ、フィリピン、スリランカなど世界各国からの未来のリーダーを育ててきました。みなさんも一緒に支援しませんか？
詳しくは事務局までお問合せください。

## 特別インタビュー

# 国連広報センター広報官　妹尾靖子さん

国連大学本部ビルの中には、国連大学の研究所の他、国連機関の駐日事務所が多数あります。今回は JFUNU のインターン生が、国連広報センター（UNIC）の広報官妹尾靖子さんにインタビュー。UNIC の活動や、国連大学と UNIC の繋がり、および UNIC における持続可能な開発目標（SDGs）への取り組みについて話を伺いました。

### UNIC とはどんな国連機関ですか

UNIC は、国連の幅広い活動を現地の言語で広く一般の方に紹介する役割を担っています。ニューヨークにある国連広報局に属する UNIC は、世界 63 カ所にネットワークを持っており、日本事務所は東京の国連大学本部ビルにあります。

東京にある UNIC が作成する広報誌の中には、ニューヨークにある国連広報局が発行した英語版を翻訳したものもありますが、東京の UNIC が独自に作成した日本語のコンテンツのほうが圧倒的に多いです。また、吉本興業とのコラボレーションなど東京独自の広報活動も数多く行っています。東京の UNIC の取り組みがニューヨークの国連広報局に評価され、根本かおる所長がニューヨークで、日本の取り組みについて紹介する機会を得たこともあります。

### 国連大学本部ビル内に UNIC の事務所があるメリット

UNIC が国連大学本部ビルにあることで、本部ビルにある他の国連諸機関と情報交換をし協力して、国連として一貫性のある広報ができるということが一番のメリットです。特に、国連事務総長の来日には国連諸機関が共同で行動することで効果的な広報が可能となります。

　また、このビルは、日本で唯一国連機関本部としての機能を持つ国連大学です。国連大学の学長は国連における職員ランクのうち事務総長、副事務総長の次に高い事務次長です。つまり日本における国連職員ではトップということになります。先日グテーレス国連事務総長が長崎を訪問した際に公式代表団（Official Delegation）の一人として随行するなど重要な役割を担いました。

### 企業と SDGs とのかかわり

近年企業が SDGs にますます関心を持つようになりましたね。最近企業から SDGs のロゴの使い方についての問い合わせが増えています。それは、SDGs がビジネスチャンスだと考えているからです。

具体的に言えば、企業にとって SDGs に取り組むことは、「地球の持続可能性に貢献している」というイメージアップに役立ち、社会的信用を得ることができます。SDGs の達成のためには、企業が SDGs を経営に取り入れ、イノベーションを促進することが不可欠ですので、企業が積極的に SDGs に取り組んでいるという近年の流れは非常に歓迎されるべきことです。

### SDGs 達成のため一人ひとりができること、UNIC がお手伝いできること

SDGs の達成には、政府の努力のみならず、国民一人ひとりの取り組みが必要不可欠です。そのためには、自分の生活において小さなことでも少しずつ行動を起こす必要があります。

多様な広報活動は、個々の意識を変えるきっかけを作ります。そこで、UNIC は市民と国連との距離を縮め、一人ひとりに SDGs という地球規模のアジェンダに自身の課題として取り組むよう、呼びかけています。例えば、今年 6 月 5 日の世界環境デーのテーマである Beat　Plastic Pollution（やめよう、プラスチック汚染）に関する取材をメディアに依頼したところ、積極的に取り上げてくれました。そのおかげもあり、人々が海洋ゴミに関心をもつようになり、意識が高まっていると感じます。つまり、まず発信しないことには何も始まらないのです。

### SDGs の達成に向け、UNIC と UNU が果たすそれぞれの役割とは

国連大学は、SDGs についてより専門性の高い先端研究を行い、国際課題の解決策を生み出そうしています。UNU にある広報部は主にその研究を紹介しています。一方 UNIC は、市民を対象とし、SDGs をわかりやすく伝えることにより、意識向上の促進に努めています。すなわち、小学校 6 年生でもわかるような内容での SDGs の宣伝をこころがけています。SDGs の達成に向けて、UNU と UNIC が協力し合うことが多くなると思われます。

### 持続可能な開発目標（SDGs）とは？

SDGs とは，2001 年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として，2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成され，地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っています。MDGs は貧困、飢餓、健康改善など発展途上国が直面する課題を取り上げており、先進国に求められるものが多くありませんでしたが、SDGs は気候変動、消費、労働という MDGs では扱わなかった分野も扱っており、発展途上国のみならず，先進国も責任をもって取り組むより包括的なものです。日本も非常に積極的に力を入れており、2020 年に開催されるオリンピックにも SDGs を盛り込む予定もあるそうです。

## インターン生が国連大学協力会に来ました

　早稲田大学インターンシップ・公認プログラム WIN の派遣により、早稲田大学アジア太平洋研究科修士 1 年の朱 起蕙（シュ　キケイ）さんが国連大学協力会で二週間の研修を行いました。朱さんは、本紙作成のため、日・英両言語でインタビューを行い、広報紙を作成するといった広報業務の他に、国連大学主催のセミナーの運営補助を経験しました。朱さんにとって第二外国語である日本語で記事を書くという作業は、簡単なことではなかったと思いますが、見事にインタビューをこなし、記事をまとめていました。将来は国連をはじめとする国際機関で広報に携わる仕事をしたいという朱さん。日本語と英語、母国語（中国語）の 3 ヶ国語を自在に操る語学力と、高いコミュニケーション力を武器に、是非この経験を活かして、幅広い分野に挑戦していって欲しいと思います。朱さんのさらなる活躍を、協力会一同応援しています。